



特定非営利活動法人
おもしろ科学たんけん工房

たんけん通信

2014年度 助成金を頂けることになりました。
公益財団法人 東京応化科学技術振興財団(理事長 藤島 昭氏)の提供する助成金で第9回「科学教育の普及・啓発助成」部門の助成金30万円を去る1月10日付で申請していましたが、このほど、申請通りの助成金の交付が決定された旨、3月14日付で通知がありました。外部からの助成金または補助金を申請して実際に交付されるのは6年ぶりのことです。
なお、DVD教材作成プロジェクトに関連して再挑戦した「かながわボランティア推進基金21」補助金は残念ながら、また落選しました。



☆ こどもたちが自転車でゆけるところに、あまねく科学体験塾を！ ☆

2014年度(平成26年度)の計画



横浜市の外郭団体との
協働が今年度も継続します

【こども科学館】

2014年度も共催の継続が決められました。

【公益法人 よこはまユース】

(公財)よこはまユースとの共催もスタッフ養成研修について継続が決まっています。

【男女共同参画センター】

男女共同参画センター横浜の3館との連携も確定し4月に入って、詳細な打ち合わせに入ります。体験塾開催の重要拠点として継続します。

【学校支援の活動】

様々な形態での学校との連携を一層強化します。

【教育委員会の後援】

また横浜市ならびに藤沢市の教育委員会の後援も、それぞれ継続することが決められました。

川崎駅前にリニューアルオープンした
東芝未来科学館への出前塾がきまりました。4月から原則として第3土曜日に、同科学館でおもしろ科学たんけん工房の出前塾が始まります。4月のテーマは「にじいろの涙」です。



金沢区内でも 定期的なおもしろ科学体験塾の開催が決められました。
金沢コミュニティハウスと富岡コミュニティハウスで1ヶ月交代で開催します。

年間約150回弱の「おもしろ科学体験塾」開催を計画しています。

そのほか、地域からの要望に応じて、たくさんの「出前塾」と、複数の学校からの要望による、数回の「学校支援」の実施が予定されています。

大盛況！ 大混雑！

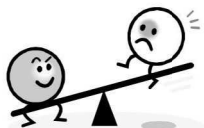
子どもサイエンスフェスティバル

入場者総数 1470人！

藤沢大会 2月11日



おもしろ科学たんけん工房としては 初めての参加でしたが、経験したことのない大盛況・大混雑に、来場者もスタッフも戸惑い気味でした。
詳しくは 3ページ藤沢地区グループたより。



おもしろ科学体験塾4月19日～7月12日の予定

申込に当たっては必ず募集チラシやホームページで確認してください。
<http://www.tankenkobo.com/>



実施日	曜日	時間帯	会場	テーマ名(タイトル)
4/19	土	午後	鵜沼中学校	気体の力のおもしろ実験と工作
4/19	土	午後	永野小学校	にじ色の涙を作ってみよう
4/19	土	午後	子ども科学館	鏡が作るふしぎな世界/万華鏡を作ろう
4/19	土	午後	富岡 CH	風に向かって走る風力車を作ろう
4/19	土	午後	藤が丘小学校	IC ラジオを作ってみよう
4/26	土	午後	湘南台高校	にじ色の涙を作ってみよう
4/26	土	午後	戸塚地区センター	水と色のファンタジー
4/26	土	午後	南センター	たまごを科学しよう
4/26	土	午後	ばれっと旭	にじ色の涙を作ってみよう
5/10	土	午後	鵜沼中学校	にじ色の涙を作ってみよう
5/10	土	午後	柏陽高校	にじ色の涙を作ってみよう
5/10	土	午前	汐見台小	たまねぎの皮で実験 ハンカチを染めよう
5/10	土	午後	白幡小学校	ふしぎな紙のマジックワーク
5/17	土	午後	戸塚地区センター	磁石とコイルのふしぎを実験 ジャンプアニマルを作る
5/17	土	午後	子ども科学館	気体の力のおもしろ実験と工作
5/17	土	午後	八景 CH	見よう さわろう 音のせかい
5/17	土	午後	都筑地区センター	えんぴつ充電池で電子メロディーをならそう
5/24	土	午後	湘南台高校	気体の力のおもしろ実験と工作
5/24	土	午後	永野小学校	音を作ろうー指ピアノ
5/24	土	午後	南センター	地震!何が起ころの!簡単な地震計を作ろう
5/24	土	午後	希望が丘小学校	ヘリコプターをつくろう
6/7	土	午前	杉田小学校	気体の力のおもしろ実験と工作
6/14	土	午後	鵜沼中学校	風に向かって走る車を作ろう
6/14	土	午後	柏陽高校	噴水の科学ーヘロンの噴水を作ろう
6/14	土	午後	榎が丘小学校	ブザーを作ってモールス通信に挑戦
6/14	土	午後	神奈川地区センター	IC ラジオを作ってみよう
6/21	土	午後	永野小学校	水と色のファンタジー
6/21	土	午後	子ども科学館	じゃがいもで実験/でんぷんを調べよう
6/21	土	午後	富岡 CH	鏡が作るふしぎな世界/万華鏡を作ろう
6/21	土	午後	三保小学校	見よう さわろう 音のせかい
6/28	土	午後	湘南台高校	磁石とコイルのふしぎを実験 ジャンプアニマルを作る
6/28	土	午後	フォーラム	音を作ろうー指ピアノ
6/28	土	午後	フォーラム南太田	にじ色の涙を作ってみよう
6/28	土	午後	中川西地区センター	磁石と電気のふしぎを実験/モーターを作る
6/28	土	午後	みなくる	えんぴつ充電池で電子メロディーを鳴らそう
7/5	土	午前	汐見台小学校	コマを作って回し比べをしよう
7/5	土	午後	アートフォーラム	ヘリコプターを作ろう
7/12	土	午後	鵜沼中学校	紙の科学 牛乳パックで紙すきにちょうせん
7/12	土	午後	柏陽高校	風に向かって走る風力車を作ろう
7/12	土	午後	都筑地区センター	鏡が作るふしぎな世界/万華鏡を作ろう
7/12	土	午後	白幡小学校	ふしぎな噴水ーヘロンの噴水を作ろう

CH=コミュニティハウス; 南センター=南区の南地区センター

藤沢地区グループ便り No.28

大盛況でした!!! 「子どもサイエンスフェスティバル藤沢大会」

—— 2月11日 県立総合教育センター (善行庁舎) ——

たんけん工房として初めての参加です。体験展示として「ジェットコースター」、「風力車」、簡単工作として「ミニホバークラフト」、「CD分光器」を出展しましたが、藤沢地区12人、他地区からの応援22人のスタッフで対応しました。

当日は非常に寒い1日でしたが、14団体が出展し、来場者数1,474名(小学生666名)の大盛況でした。

◎体験展示「ジェットコースター」

3連と4連の宙返りジェットコースター各1台と、三コースのボール走行競争装置1台を出展しました。

多くの児童や中には1歳位の乳幼児も足を止め、ゲーム感覚で大いに楽しんでくれたようです。ボールがゴールに到達すると、保護者共々「ヤッ！」等の歓声を上げているのが印象的でした。

「なぜジェットコースターは走るの？」の疑問や好奇心を感じて貰えるような更なる工夫が必要と感じました。

(文：加藤・矢野)



◎体験展示「風力車」



ウチワで扇ぐと車が風に逆らって寄ってくる様子に、子供たち、保護者も、一様に不思議

そうなる顔をしていました。ウチワで扇ぐだけなので、小学生から幼児まで、パタパタと大いに楽しんで遊んでくれました。中には、何人かでレースをして楽しんでいた児童もいました。

予想以上に楽しんでもらえたようで、スタッフ一同大満足でした。(文：笹野)

◇簡単工作「ミニホバークラフト」

風船とCDを使ってテーブルの上を走るミニホバークラフト作り



に挑戦してもらいました。小学生から3歳ぐらいの

幼児、お母さんまでが参加してくれました。想定を上回る大盛況で、用意した200セットでは足りず、予備のセット、最後は見本を分解したり、その場で部品を作ったりして、最終的に230セット完成させました。

風船を輪ゴムで固定するのが子どもには難しかったようですが、出来上がってスーと動く、うれしそうにテーブルで滑らせていました。(文：後)

◇簡単工作「分光器」

今回はCDを切って小さな箱の中に納めた分光器を、子供達に作ってもらいました。

出来上がった分光器で蛍光灯と白熱電球の光を見ると、きれいな虹が見えて“わーキレイ”アレ！見え方が違う“どうしてー”と大歓声。蛍光灯は七色ではなく、主に3つの色で出来上がっている(3波長型)ことや、窓の外に向けると、自然光(太陽の光)は白熱電球と同じで色の境目がない連続スペクトルであることが確認出来ました。

材料は170個用意しましたが、昼過ぎには無くなってしまった程の大人気でした。希望しても作れなかった皆さん、ゴメンナサイ。(文：柴田)



(編集：笹野、写真：鹿島)

横浜東地区グループ便り

横須賀市の体験塾

菅原 隆

横須賀市は横浜市、逗子市、葉山町と三浦市に隣接し、東に東京湾、西は相模湾に面した人口は約41万人の市です。たんけん工房の活動は、土屋さんの熱心な働きかけで市内のコミュニティセンター(略してコミセン)の催事として取り入れてもらい、以降8年の間毎年数回、市内各地のコミセンから依頼を受けて、出前塾として開催しております。会場となるコミセンは、市内の20か所ほどある中の6か所ほどですが、大津、浦賀、田浦など文字通り津々浦々での開催となります。



塾の内容はほぼ体験塾に沿ったものになりますが、特徴はPRにあり、市のホームページ、市内全戸に配布される「広報よこすか」への掲載、各地区のコミセン・行政センターでのチラシの掲示、該当地区町内会への回覧用チラシの配布など、行き届いたPRがされ、いつも定員いっぱいの応募があります。

一方横須賀市在住の工房の会員は現在6名で、所属の東Gの方々の応援を頂きながらの開催で、参加者や保護者の方からの「横須賀市でももっと開催してほしい」の要望に応えきれていないのが現状です。長年の懸案ですが会員の増強に努め、コミセンとの信頼協力関係を大事にしなが、地域に貢献して行きたいと思っています。

体験塾での1つの試み

島田 祥生

この2年ほど、気になっていることがあり、小学校の校長先生をはじめいろいろな方に意見を聞いてきましたが、いよいよ、フォーラム南太田での体験塾で、スタッフの皆さんに取り組んでみてもらうことにしました。

素直、発想が豊か、人懐っこい、などなど。でも、1つずつ順番に説明すると分かりが良いのですが、なぜか手がかかる。そんな参加者に、塾のプログラムをしっかりと体験してもらうにはどうしたらよいか……。参観者のアンケートでも時おり、「もっと厳しく指導してほしい。」とのご意見をいただいているのですが、でも、彼(彼女)らはひょっとすると大成するかもしれません。みんな自分なりの世界を持っているのです。

今回は、アシスタントにone-by-oneで対応してもらいました。終わってからのレビューでも、自然体でアシストできたなど、好評でした。でも、これからもその子に誰かが張り付くことが趣旨はありません。このような経験を皆で積み重ね、アシスタントが班として指導できるようにすることが目的です。

しばらくこの試みを続け、みなで「成功体験」を共有していきたいと目論んでいます。

たんけん工房2年生になります

今野 邦男

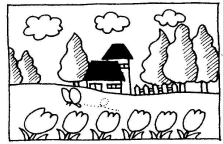


2013年4月に入会して、1年経ちました。たんけん塾、出前塾、イベント、交流会、アイデア交換会、定例会議など、私なりに積極的に参加させて頂きました。アシスタント、副主任、新年会幹事、会場係などの役目も経験させて頂き、4月からは主任も担当させて頂ける予定です。子供たちが大きく育っていく、その手伝いができている。そう実感できる団体に所属していることをうれしく思います。

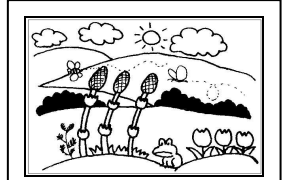
新年会で、安田代表とお話する機会があり、これだけ大規模に行っているこの種の団体は日本でも他に例がないのではと伺いました。このような活動が全国に広がっていけば、さらに素晴らしいと思います。

私が願うのは、多くの子供たちが、科学に興味を持ってくれること、また、自信と積極性を持って物事に取り組んでくれるようになってくれることです。また、たんけん工房の会員は、皆さん素晴らしい方が多く、経験豊富で社会貢献に熱心です。そのような大人の姿を、子供たちに見せることが、良い教育の手段になっていると思います。

今後とも、その一員として、会員の皆様、子供たち、父兄の方々と協力して活動していきたいと思っています。



横浜北1地区 グループ便り



春です。47号のカットは土筆とチューリップという春を迎えるのにふさわしいを渡辺智子さんに選んでいただきました。このところ約1年間にわたり、北1グループでは、毎月定例会の後に、「簡単工作」に取り組んで、楽しんでます。北1の定例会議事録の終わりの方に毎月石橋さんが撮った写真が載っていますのでどうぞご覧ください。いろいろなメンバーの皆さんが先生になって、約1時間くらい工作をします。わからないところは皆で教えあい、和気あいあいの雰囲気で行っています。毎月毎月しているので種切れになりやしないかと、皆さんに諮ったら、「まだまだありますよ、たんけん通信でどんどん紹介してください」というご意見がほぼ全員でしたので、今後もこのシリーズをもう少し続けますのでよろしく。

【和傘を作る】 平出一郎

たんけん工房は科学のたのしさを子供たちに伝えることを主眼にしていることを考えると、折り紙は「おあそびに過ぎない」とお思いでしょうね。

でも北1で毎回開いている教室で、机の上に置くゴミ箱は折り紙で作っています。

工房の会員にかなり高齢の方が増えてきた昨今、指先の細かい作業を行って老化を防ぎ子供たちに対峙してもらおうと、開閉自在な和傘を皆で作りました。

材料は2枚の折り紙と竹ひご1本を少々だけ。鶴が折れる方なら難しいところはほとんど無く、単純な折りが正確に出来れば写真の様な傘が作れます。細く閉じたプレゼントを目の前でさっと開けば・・・素敵ですよ！

折り(骨)の数は16本で作ってありますが、大きめの包装紙などで32本折りなどにすると豪華です。因みに現在も山形で造られている柿渋の番傘は、骨が52本あります。

(興味をお持ちの方は、北1平出まで)

定例会での印象

今回は約1時間工作に費やしましたが、完成までたどり着いたのは、平出さんによると、女性が2~3名と男性が1名とのことでした。ちょっとタフでした。宮坂さんが助手役を買って出て下さったのは大いに助かりましたとのことでした。



平出 白筆



【ストロー人形】 田中政治

毎年春、夏、秋に各地域の施設や学校などでお祭りが開催されます。この様なお祭りには子どもに接する楽しさと、たんけん工房のアピールのため、機会あるごとに参加しています。以前私は地元の小学校のハマツクスクールでアシスタントを長年させて頂き、この時代に簡単工作アイテムを会得しました。なかでも「ストロートンボ」「ストロー人形」「どんぐりアート」は各地のお祭りに生かしています。「ストロートンボ」は工房の科学塾「ヘリコプター」のヘリコプターがなぜ飛び上がるかの説明の演示にも活用されています。

今回簡単工作として紹介した「ストロー人形」ですが3本のストローをセロテープで結束し、この両側のストローに熱線で手首の関節、肘関節、肩関節を作り、真ん中のストローに顔などを取り付け、両側のストローに糸(テグス)を通し、下から上下に糸を引き、各関節を動かすという仕組みです。紙面では作り方を表現するのは難しいので、ご希望があれば指導させていただきます。



ストローの腕の真ん中の顔のところにいろいろな表情の顔を貼って出来上がり



横浜北2地区グループ便り



万華鏡に魅入られたこどもたち

1月20日上星川小のはまっ子ふれあいスクールで、ペットボトル万華鏡のたいけん塾を行いました。参加者は小学校1年から5年までの26人、時間は1時間でした。依頼者の要請は、工作だけでなく理科的な体験もできる内容を。体験として2枚の鏡の実験を行いました。V字の鏡の角度を変えると鏡の中の人形の数が変わります。子どもたちは夢中になって観察しました。チーフパートナーさんから、実験に集中する低学年の子どもたちが新鮮だったとの感想がありました。(津島 治子)



空気の重さ、圧力の不思議 5年ぶりの挑戦！！

車の運転を制限され、さらに永く主任をしていないので辞退していましたが、運転代行をするからとの要請で挑戦してみることにしました。機材探し、材料調達と悪戦苦闘しましたが、皆様の多大なるご支援をいただき無事乗り切ることができました。

本テーマは、子供達に浮沈子作りをとおして、空気に重さがあり、その重さの圧力によるいろいろな現象を体験してもらうことをねらいとしています。子供達の真剣な表情と歓声に挑戦して良かったと思っています。(鈴木健夫)



「おイモの科学」をおいしくたいけん

野田主任とうまれて直ぐの坊やを背負った花見サブ主任で3月8日に神奈川地区センターで行いました。おイモには酵素が含まれていて、その働きで加熱するとデンプンが糖に変わるとを糖度計等で確かめました。最後にオンリーワン・スイートポテトを作って試食し、甘さも体験しました。(古村 哲夫)



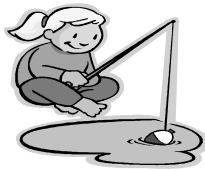
野田 博

5年前まで化成品の製造メーカーに勤めていたが、30代は工場勤務で、とにかく“安全第一”が徹底され、安全靴を1日中履く生活だった。ある時「水虫」を患ってしまった。その頃「通勤快足」なる防臭靴下はがやっていた。売り場で手に取って観察すると、細い銅線が数本織り込まれているだけで結構高価だった。確か、銅線の効果は、靴中では、はびこる細菌が適度な温度の下、皮膚の新陳代謝から出る、油脂分、蛋白質を餌に、増殖し、吉草酸等の悪臭物質を生み出すが、銅イオンの働きで細菌を殺すと言われていた。ならば、同じ銅を含む10円玉で試してみると、水虫も悪臭も消える格段の効果が認められた。その後30年以上も水虫は現れていないのである。一方、靴は、買い物時、10円不足の折、お釣りでたくさんのお金を受け取るのを防ぐ、貴重なサイフでもあり、左右の靴で20円持っていることでもある。ただし、10円玉を取り出す動作に工夫が必要。さりげなく、直前に靴に落した10円玉を拾う動作を装って、取り出さないと店員に嫌な顔をされるのは間違いなし。

“お金を踏んづけていると罰が当たる”と家人に白い目で見られてはいるが、今や靴と靴下の間に置かれ、磨かれた、“赤銅色”に輝く10円玉に“世界一安価な安全な靴消臭、水虫特効薬”として感謝している。

山田 繁 さん

東グループ
2013年2月入会



A1: 富山県高岡市で生まれました。高岡市は北で『氷見のブリ』で有名な富山湾に接しています。この富山湾に面したエリアのひとつに『雨晴(あまはらし)』があります。ここには 義経、弁慶が奥州へ逃れる途中 雨宿りをしたという言い伝えがあります。この雨晴の海岸から 晴れた日には 海の上にそびえる 真っ白な雪の屏風---立山連峰を見ることができます。私のお気に入りの風景のひとつです。

現在、礪子区森が丘に住んでいます。冬になると我が家の窓から 大きな富士山を見ることができます。家の前で撮った富士山の写真を 愛好家のサークルに提供したところ 家の前が 礪子区で 2 番目の富士山観賞スポットになりました。(1 番目は忘れました。)

学校を終えた後 石油化学工場に勤め、プロセスエンジニアリングやセーフティーエンジニアリングの仕事をしました。

A2: 礪子区が推進しているボランティア養成コースの実地見学時にお会いした密島さんからこの工房を紹介されました。『おもしろ科学』の言葉に魅せられて 直ぐに 体験塾を見学させていただきました。

このとき 子供たちの笑顔と子供たちを楽しそうにサポートされていたらっしゃるメンバーの方々の姿を拝見して 参加を決めました。

A3: 理科好きの子供を増やす活動を 時間が許すかぎり 続けたい と思っています。

A4: 趣味は、何と言っても釣りです。会社の先輩に 城ヶ島近辺での磯釣りの手ほどきを受けたのがきっかけです。ここ 10 年ほどは 相模川のジャリ穴で籠(へら)鮎釣りに熱中しています。

他に、中央図書館などで開催されている読書会に参加しているほか、近くの小学校で『イソッコサポータ』として理科支援もさせていただいています。趣味ではありませんが、たんけん工房に参加してからは、百円ショップを見てまわるのが楽しくなりました。

A5: 『?』を持ち、その答を 自分で見つけて欲しい。

A6: オリジナルな内容で 体験塾や出前塾に参加できるように 早く なりたいと思っています。

枝原 幸美さん

北1グループ
2013年4月入会



A1: 兵庫県で生まれ育ち、2000 年から神奈川県大和市で暮らしています。小学4年生の夏休みの1か月間、母と星の動きを観測した頃から、科学全般に興味を持ち始め、大学では生物を専攻、環境調査会社に11年間勤務しました。一度だけですが、1か月間環境調査船に乗り、太平洋上でCO2 濃度等を観測したことは貴重な体験となりました。現在はおっぱら子育てに奮闘中、長年使っていなかった脳を、子供の成長に伴って触発され、活性化させている最中です。

A2: 自分自身が興味を持った理科のおもしろさを、子供達にも伝えたいと常々思っていました。そんな気持ちを持ちながら、子育てをしていた時に、タウン情報誌でおもしろ科学たんけん工房の記事を見つけ、参加しようと決心しました。

A3: なかなか3時間以内の実験にまとめられるようなアイデアが生まれませんが、生物関連の講座を1つでも開発できたらと思っています。それから自分にできる能力の範囲で、1つでも多くの体験塾講座を引き継いでいける人材になりたいと思っています。今年度はまずは1つ、『水と色のファンタジー』にチャレンジしていきます。

A4: 音楽が好きで、ピアノ、ギター、サックスなどを演奏した経験がありますが、今はピアノに専念。音大生でないと思っていなかった、ショパンの『革命』などに挑んでいます。年に1回開催される大和市のアマチュアコンサートに出演したり、老人ホームでの演奏会に参加したり、教会で催されるクリスマスコンサートで演奏したりしています。他には、木に絵を描くツールペイントは習い始めて10年となり、もう少しで講師の資格がとれるので、頑張っているところです。

A5: 魚の解剖と天体観察。ミクロにもマクロにも興味を持ってほしい。魚は鰯でも、天体は月食でも、家でできる。

A6: 結婚子育てで社会から離れていましたが、たんけん工房に入会し、再び社会に携わることができるようになり有り難く思っています。理科のことでなく運営面なども学ばせていただこうと思います。



動機を書いてください。

- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか? 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や、他に活動していることはどんなことですか?
- Q5 子どもたちにぜひすすめてみたいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあればご自由に一言。

プロフィールは 7 ページと 8 ページに掲載

- Q1 生まれたところ、今住んでいるところと、ごく簡単な略歴を差し支えない範囲でお書きください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、



今野 邦男 さん
東グループ
2013年4月入会

A1: 1948年12月横浜で生まれました。現在、金沢区能見台在住です。数学は好きですが、工作は苦手な方です。精密機械会社で研究、開発、設計、技術などを主に担当しました。専門は光学です。8年間の米、独への海外勤務経験があります。2012年12月末で、上記会社を退職し、年金生活者となりました。現在、在宅で特許英訳をパートタイムでしています。

A2: 退職後にやりたいこととして、社会貢献を考えました。私が経験したことを生かして、子供たちに役に立つ何かを教えられたらと、退職の少し前に思うようになりました。ちょうど、おもしろ科学たんけん工房のチラシを見る機会があり、早速応募しました。

A3: 理科(科学)に興味を持ってくれる子供たちが増えてくれることが、まずは目標です。具体的には、たんけん工房の活動にまじめに参加することから始めたいと思っています。

A4: 趣味は、囲碁と語学勉強です。囲碁は会社の囲碁部で5段です。最近、囲碁は年に数回しか打っていません。語学は英語と中国語を習っています。中国語は初級レベルです。他の活動としては、マンション町内会のシニアクラブ設立検討会に参加しています。地域のつながりを通じて、何が出来るか考えてみたいと思っています。

A5: 読書です。私自身、若いときに読書をしなかったことを後悔しています。3人の孫に、毎月絵本を配本しています。3人とも本が好きになっています。

A6: 私は、団塊の世代の65歳ですが、たんけん工房では若手のほうです。団塊の世代の皆さんをはじめ、若手(?)の方々の積極的参加を期待します。

平井 信雄 さん
東グループ
2013年4月入会



A1: 横浜市磯子区浜(浜マーケット)で生まれました。子どもの頃は海、山を遊び場に色々なことをやり、空き地では野球をやっていました。

小三で、今の南区中里に引越し、小四で転校し、現在に至っています。

A2: 孫とのコミュニケーションのつもりで参加しました。現在の仕事でお年寄りと子どもが共通点があるのではないかと考えて受けました。また、町内では子どもの担当をしています。

会員のプロフィール(自己紹介) 続き

津田 俊治 さん



北1グループ
2013年4月入会

A1: 私の故郷 近江の国は、「さだなみ」と万葉集に歌われた風光明媚な湖国です。豊かな歴史と文化を持つ近江八幡市です。高速道路の計画設計、建設、維持管理関係の公団に勤務しておりました。転勤族で家族には随分迷惑を掛けたこととっております。私は、転勤するたびにいろんな地域の方々とおめぐり会えて結構楽しい生活を過ごしておりました。

A2: 子供達と楽しく話し合える機会を見つけておりました。日常我々が常識として捉えていることを、分かりやすく説明を求められても戸惑う事が多いにあります。コマが倒れないわけ? 飛行機はなぜ飛ぶのか? 子供達と一緒にものづくりを通じて考える取組みをしたいと思い「たんけん工房」の扉をタダクことにいたしました。

A3: 子供達を楽しく誘導するために、常に子供達が疑問を感じたり、興味を感じとらすように動機づけ、キッカケ、仕掛け、観察の仕方等を通じて対応していきたいと思っています。

A4: 趣味は、月一回の仲間達とのコントラクトブリッジ。デジカメでの野草撮影(野草の名前、名前の由来、野草の種類等々、デジカメ撮影技術、編集技術等々の技術力と知識の取得)。ウォーキング。住宅近くの介護施設での介護支援ボランティア活動を週2回。

A5: 日常生活において体験して、失敗を通じて学んでもらいたい。新技術の開発等は体験・体感を通じた匠の技の集積であることを学びとる必要性。

A6: 経験豊かな皆様方と出会えてとても喜んでおります。今後ともご指導のほどお願いいたします。

A3: 現在まだ仕事をしているため、あまりできませんが、いずれは色々やってみたくと思っています。

A4: 趣味はスポーツ、旅行、ボランティア活動、町内活動。現在横浜市早朝野球リーグに参加、自分のチームとシニアチームに参戦(監督兼プレーヤー、シニアでは主将) 冬には家族全員でスキーに行きます。

A5: 安全と安心。色々な面でたのしく、安全に活動させる。

A6: 活動に出来るだけ参加したいと思っています。リハーサルには行けないが、参加して覚えたいです。

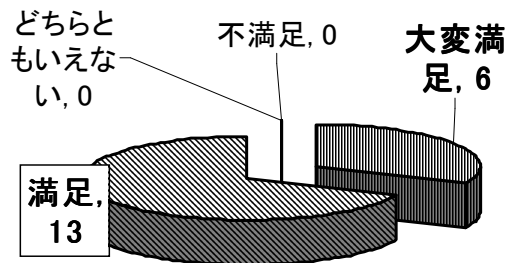
科学体験活動推進スタッフ養成研修 横浜地区

2014年度 第2期研修

アンケートから

横浜地区のスタッフ養成研修は年間2回実施しています。第2期は10月から3月にかけて実施。19名が参加しました。その19名から終了時点でのアンケート回答を頂きました。寄せられたご意見をいくつか紹介します。

全体としての満足度



受講者数=回答総数=19

Aさん ・大満足した :60代 男性

- ・ 全般としては、楽しく参加させていただきました。
- ・ 研修を通してドライバー、はさみ等の工具の使い方、改めて奥の深さを痛感しました。
- ・ 興味がある電気関連の講座を主体に実習しましたが、その他の分野も受講したいと思います。
- ・ 参加するお子さんは、素直でよい子が多いと感じましたが、一部落ち着きがなくマイペースのお子さんへの対応は、経験が必要と感じました。
- ・ それぞれの工作キットは、感心するほど良くできていました。キットの事前準備は、ご苦労が多いとお察します。
- ・ 教え方を習得するには、子供の目線にどこまで歩み寄れるか多くの場数を踏むことが大切と感じました。また、教えを通し学ぶことが多くありました。
- ・ 限られ短時間に理論学習から工作指導までかなりタイトな時間配分と感じました。理論学習は、気づいてほしいこと伝え、その後の自己学習へのきっかけにつながればと思います。
- ・ また工作は、工作のツボを知り、完成させる喜びを感じてもらえば、将来の工作おじさん(おばさん)が増えることを期待します。

Bさん ・満足した :70代 男性

- ・ 理科は五感に刺激し、それを言葉・絵や文章にする事によってさらに五感が研ぎ澄まされる。
- ・ これを誘導する教育方法はいろいろあろうが五感を刺激することが肝要であろう。教師や指導者の講座内容の事象の熟知度と児童の習得度を解析し、判るような誘導能力が大きく依存するのではと思った。
- ・ 集合研修で放映して頂いたDVDの様な先生は稀少で、大変失礼と思うが多くの先生は時間内に決められた時間内に定められた内容をたんと進められていないだろうか？
- ・ 理科を通じて、モノの考え方、調査力、仮説の設定
- ・ その表現力(文章・絵や発表)が養われ、それには国語力・算数力・図工・歴史等々すべての知識が必要である。
- ・ モノの進め方は高学歴になった時やさらに実社会に出た時に極めて必要なことで、4年生位から徐々に取り組むべきであろうと思う。
- ・ その一端を児童と共に互いに養っていく本講座は資源の少ない日本には今後共に存続するためには学校教育での隙間を埋めるのには重要な役割を担っているように感じた。
- ・ そして、この講座に参加して将来、児童が少しでも何等か影響されればうれしいと感じた。

Cさん ・大満足した 60代 女性

良かったこと ①親しくさせていただいた方もでき、知り合いが増えたこと。②知らないことを実習や研修の中で学べた。③家族に学んだことや出来上がった物を見せて話の種ができた。④参加した子供達と接することが楽しかった。

改めて感じたこと ①子供達がとてもよい子で真面目な印象だった。②最近の子供もこのような工作に興味を持っていることがわかった。③自分が不器用で、できないことが多かったこと。

特に印象に残ったこと ①子供達がとても楽しくいきいきと実験したり、工作をしていたこと。

感心したこと

- ①教材がとても工夫があり、良くできていた。
- ②リーダーの方々の懇切親切な指導は余裕さえ感じ学校の先生方にも参考になるような気がした。

Hさん ・満足した 30代 男性

- (a)ものすごく作り込まれ、準備も周到な、工作が素晴らしいと思いました。
- (b)全体研修では、学ぶという事や、教育とは、という様な事を指導頂き、大変役立ちました。
- (c)ひとつ気になったのは体験塾が(a)工作に偏重していて、(b)が少ない。ここを改善すると良いと思いました。

Fさん ・大変満足した 40代 女性

自分自身理科が好きなこと、再就職する前に何か取り組みたかったこと、ママ友以外のコミュニティに参加したかったことが、今回研修を受けるきっかけでした。

4回の研修はどれも興味深く、持ち帰った工作類はねじで作ったピアノ、切り紙、牛乳パックの竹とんぼなど我が家の子ども達が喜んで遊んでいました。

講話では、特に松藤先生の話は人を引き付ける話し方や内容でした。子育て中の私にとって「想定外を想定内に」考えておくだけで、ちょっとしたことでイライラせずすみ、家庭内が良い雰囲気になり講話のおかげだと思っています。

実習に参加すると、様々な技術を持った先輩方がいて、びっくりしました。このような方達がいるおかげで、工房が成り立っているのだと改めて感心しました。

研修中の座席は、地域ごとに分けられていましたが、せっかく研修で知り合えた仲なので午前と午後で席替えをしたりして、他の地域の方とも一緒に机でお話してみたいです。

Gさん ・満足した 70代 男性

おもしろ科学たんけん工房のような理科教育を目的とするボランティア活動への参加は、初めての経験でしたが皆様が大変意欲的に取り組んでいるのに感銘を受けました。

【1. 研修プログラムについて】

スタッフ養成講座として集合オリエンテーション・実習を4回受講しましたが、基本的な内容にもかかわらず、改めて学習することばかりで、これからの活動に参考になりました。

- ◆工具の使い方——ドライバとかハサミなどについて、取り扱い方に今まで無神経にだったことに気づかされました。基本的な構造とか機能をしっかりと理解しておくことが重要ですね。
- ◆相手が児童なので、カッターナイフはもちろんドライバーなどでも、安全面を特に配慮することが大切だと感じました。
- ◆現場教員に聞くとして「安全への配慮」の特別講話を受けました。さすがに、経験を積んだ先生の実践的な講話に大きな刺激を受けました。特に「想定外を想定内に引き込むためのヒント」では豊富な具体例を教示頂きました。これからも、事あるごとにテキストを再読する必要があると感じた。それと教える側には何より情熱と愛情が求められますね。
- ◆毎回の研修の都度、「児童自身に考えさせることが重要」とのお話がありました。基本方針として納得しました。

研修終了時アンケートから (続き)**Dさん ・大変満足した 40代 男性**

まずは、貴会のようなボランティアの団体において、正会員または準会員としての登録前に半年間の研修を設ける事自体が貴重であり、組織としての意識の高さに感服いたしました。

研修の形式も、安全研修を主とする全体研修と、実践的な「体験塾」の場で、児童の立場で体験する「自由実習」とアシスタントの立場を体験する「現場実習」の組合せ、というバランスの取れた必要十分な内容であったと思います。

Eさん ・大変満足した 50代 女性

良かったこと… 徐々に子供に接することができ、皆が

子供に向いている姿を目の当たりにできたこと

改めて感じたこと… 子供達が興味をひく事柄はたく

さんあって 楽しそうでいいなあと感じた。

特に印象に残ったこと… 緊張しながら不思議楽し

そうな子供達の顔

感心したこと… 忙しい世の中通り一遍に進まず

それぞれの様子を見ながら進めてくれるところ。

物足りなかったこと… もう少し色々な実習に行き

たかったです。ついつい自分が得意な分野を選んで

しましたが、知識的に足りていないものに参加してみたいです。

改善した方がよいと思ったこと・特に思いつきません

【2. 現場実習/自由実習について】

- ◆児童に、基本的なことを考えさせるのはなかなか大変。どうしても、ある程度は、知識を前提にしないと先に進みませんね。たとえば、静電気のプラスとマイナスが、なぜ引き合うのかと問われると簡単には回答できません。
- ◆挑戦的なテーマにも取り組んでいると感じました——「DNAワールド」など。分かりやすい説明が求められますが、難しい用語も多く大変です。児童もテレビなどで、誤った知識を詰め込まれているので、その誤解を解くのも大変です。◆すべてのテーマに工作が組み込まれています。児童も工作の場面になると目が輝くようです。そのため工作自身が学習テーマそのものになってしまう懸念があります。じっくりと先生の話聞いてテーマを理解してもらおうようにもって行きたいのですが。